

第3章

土木未来プロジェクト

- 1 豪雨災害対策
- 2 南海トラフ地震対策
- 3 九州の東の玄関口としての拠点化
- 4 大分都市圏交通円滑化対策
- 5 道路空間の再生
- 6 大分県公営住宅マスタープラン2020の策定及び推進
- 7 社会資本の集中的メンテナンス
- 8 建設産業の魅力発信

1 豪雨災害対策

●玉来ダムの早期整備による治水効果発現

玉来ダムが令和4年に完成し、令和5年4月から本格運用を開始しました。今後は、稲葉ダムと共に、洪水から竹田市民を守る治水の要として、竹田市街地へ安心・安全を届けます。

玉来ダムの状況 (R5. 3月時点)



竣工式 (R4. 11. 7)



玉来ダム満水時 (試験湛水R4. 9. 20)



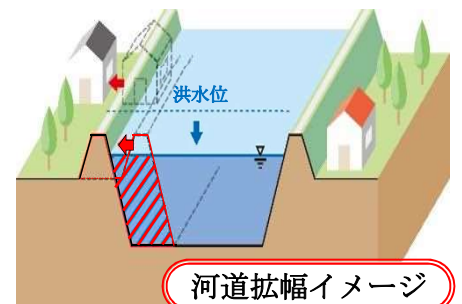
玉来ダム諸元

形式： 重力式コンクリートダム (流水型)
 堤高： 52m 堤体積： 約18万m³
 堤頂長： 145m 総貯水容量： 409万m³

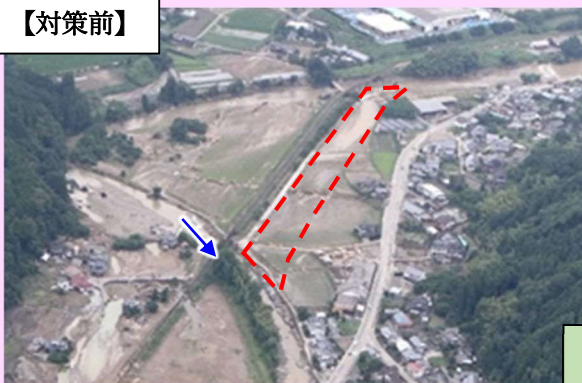
●改良復旧事業等による再度災害の防止・軽減

平成29年の記録的大雨により、甚大な被害を受けた県の管理河川において、再度災害の防止・軽減を目的に、改良復旧事業等の緊急的な治水対策事業を実施しています。

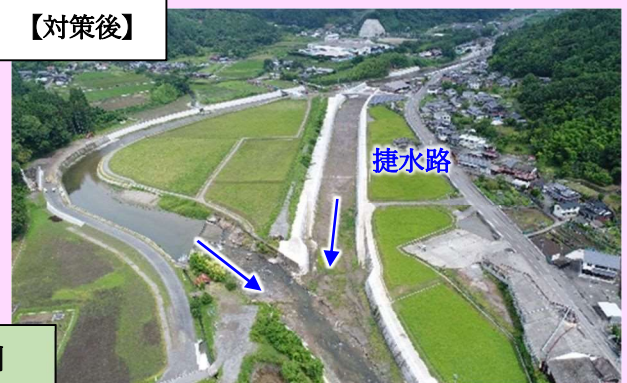
日田市の大肥川では、河道拡幅や捷水路の整備等を行い、流下能力を向上させています。



【対策前】



【対策後】



大肥川



1 豪雨災害対策

●実効性のある避難行動を確保する取組の推進

「土砂災害避難促進アクションプログラム」に基づき、7市町において、市町職員や地域住民の方々と連携して、危険箇所の確認やタイムラインの作成、避難訓練等を行いました。

●ハザードマップの再点検：危険箇所や避難場所・避難経路、要配慮者の方などを確認



別府市 R4. 9. 28



由布市 R4. 10. 30



中津市 R4. 11. 12



●まち歩き：危険箇所や避難場所・避難経路等を現地確認



日田市 R4. 10. 16



臼杵市 R4. 11. 13



中津市 R4. 11. 27



●地区タイムライン：「いつ」、「誰が」、「何を」行うかを時系列に整理した行動計画を作成



玖珠町 R4. 10. 24



別府市 R4. 10. 24



日田市 R4. 11. 6



●避難訓練：ハザードマップやタイムラインを活用した避難訓練を実施



由布市 R4. 11. 13



玖珠町 R4. 11. 27



豊後高田市 R5. 2. 26

「住民主体」で地域のリスクや課題、行動計画を整理

地域の実情に応じた訓練

▲土砂災害専門家（砂防ボランティア）を派遣し、住民・市町村を支援

2 南海トラフ地震対策

●護岸の耐震化や強化による大分臨海部コンビナートの強靱化

切迫する南海トラフ地震・津波や台風による高潮に対し、大分臨海部への甚大な被害を最小化し、地域の安全・安心を守る必要があります。そのため、老朽化が著しい大分臨海部の海岸保全施設の防護機能強化を早急に行うこととなりました。

国土交通省の「大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業」として平成29年度から地盤改良や鋼矢板等の護岸改良工事を進めています。

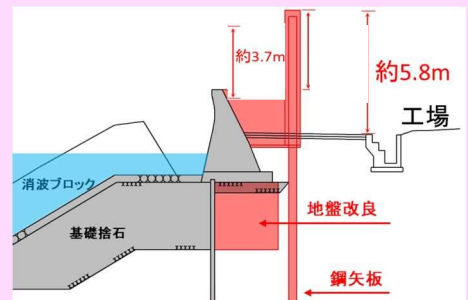
今後も、国・県・市が協力のう え、関係企業や住民と調整をしながら、事業を進めます。



大分港海岸直轄海岸保全施設整備事業 事業箇所図



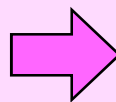
整備状況



整備断面図

●緊急輸送道路の橋梁耐震化、啓開ルートののり面崩壊対策

公的機関・災害拠点病院等の広域的な防災拠点や救命活動に係る重要拠点を結ぶ「最優先啓開ルート」において、道路法面对策や橋梁の耐震化を実施しています。道路法面对策は、令和3年度に大分空港道路で対策を実施し、最優先啓開ルート上の対策が完了しました。優先啓開ルートでは、国道212号などで対策を進めています。また、橋梁の耐震化は、令和4年度までに47橋で対策を実施しました。



道路法面对策事例 国道212号(日田市)

●道路啓開の確実な実施に向けた体制の構築

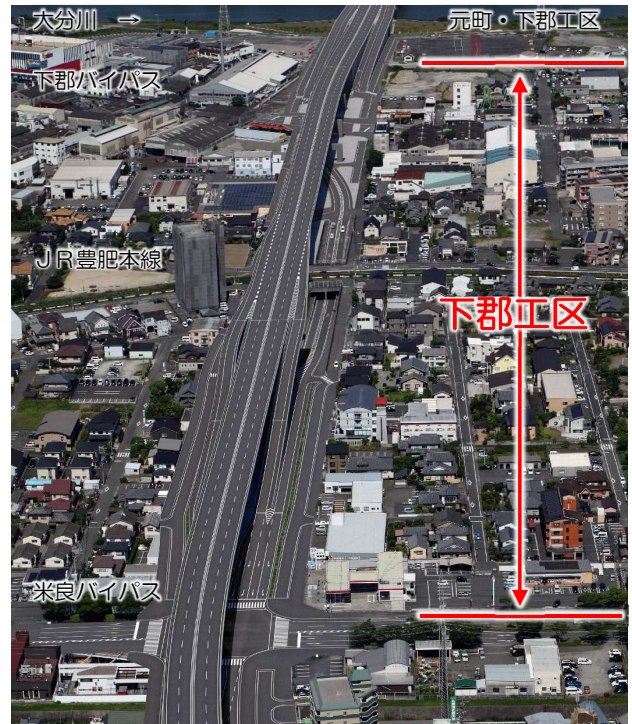
大地震等により救命・救援活動を支える緊急輸送体制を早期に確保するための「道路啓開」を行うにあたり、「だれが、どこで、いつまでに、どのようにして」といった活動手順を具体的に定めた地区別実施計画を策定し、道路啓開の確実な実施に向けた取組を進めています。

4 大分都市圏交通円滑化対策

●(都)庄の原佐野線

本路線は、大分市内中心部での交通渋滞の緩和や高速道路へのアクセス強化を目的とし、整備を進めているところです。

宗麟大橋を含む「元町・下郡工区」に続く下郡バイパスから米良バイパス間の「下郡工区」は、平成29年度から事業に着手し、令和4年度は用地買収を推進するとともに工事に着手しました。



下郡工区 整備イメージ (将来計画含む)

●国道197号(鶴崎拡幅)

大分市の志村～乙津間は自動車交通量が多く、大野川を渡る橋梁部などでも2車線しかなく、慢性的な渋滞が発生しています。

このため、平成27年度から4車線化の事業に着手しました。まずは、乙津工区の整備を優先し、整備を進めていきます。令和4年度は用地買収の推進及び、乙津橋の上部工工事を進めました。



国道197号(鶴崎拡幅) 進捗状況

●国道442号(宗方拡幅)

大分市の宗方・植田地区では、交通量が多く、沿線には商業施設が多く立地していますが、歩道が狭く途切れた区間もあり、交通安全対策が課題となっています。

このため、平成26年度から一部4車線化と歩道設置の事業に着手しました。令和4年度は用地買収の推進及び、改良工事を進めました。



国道442号(宗方拡幅) 一部供用済みの区間

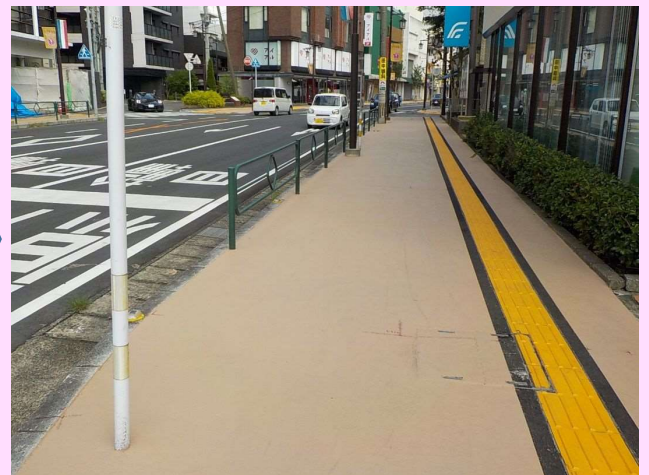
5 道路空間の再生

●道路空間の再生とは

道路の拡幅のほか、既存道路幅を利用し交通実態に合わせた幅員の再配分や無電柱化、歩道舗装の再整備、街路樹の見直し、照明のデザインの統一、バリアフリー化などを実施し、都市景観を踏まえた幹線道路の再整備を行っています。

日田玖珠線（日田市元町）

日田玖珠線（日田市元町）において、日田駅前通りの歩道で、街路樹の見直しや更新を行い、歩行空間を広げる等、歩道の再整備を行いました。



街路樹の見直しによる歩道の整備状況（日田駅前）

国道500号（別府市鉄輪地区）

国道500号(別府市鉄輪地区)において、歩道の拡幅と無電柱化に向け、事業を進めています。令和4年度は、用地買収や一部歩道の拡幅工事を行いました。



景観を損なう電線や電柱

整備後のイメージ

6 大分県公営住宅マスタープラン2020の策定及び推進

今後想定される世帯数の減少や老朽化の進行、さらに、維持修繕・建替コストの増大等の諸問題に対応し、県・市町村が一体となって公営住宅をマネジメントするため策定しました。

本計画は、地域社会や家庭に関する諸課題の解決や、時代の要請に応えるべく、公営住宅に関わる全ての自治体が課題と目的を共有しながら、地域ぐるみで子育てしやすい環境を提供することで“子育て満足度日本一”の実現を目指すとともに、子どもからお年寄りまで、安全・安心な住環境の提供により居住の安定を図り、公営住宅が地域コミュニティの維持・活性化の拠点施設としての役割を果たすよう、以下の理念と目標を掲げて2040年度まで施策を展開していきます。

プランの進捗については、毎年県と市町村の住宅部局で構成される地域住宅協議会において進捗を報告して、目標達成に向けて着実に取り組んでいます。

●バリアフリー化等住環境の改善

高齢化社会への対応のために住戸内のバリアフリー化を進めています。



手すりの設置



浴室の改修

高齢者向け改善工事

子育て支援への対応のために、地域の実情を踏まえた住戸改善を行っています。



対面式キッチンの設置



和室のフローリング化

子育て世帯向け改善工事

7 社会資本の集中的メンテナンス

●早期に対策が必要な社会資本の補修・補強対策を推進

多くの社会資本が高度経済成長期以降に集中して整備されており、今後、老朽化する施設が急増することが懸念されます。

平成30年までに実施した各施設の定期点検の結果、早期対策が必要な施設が多数あることが判明したことから、その対策を着実に進めています。

その後は、損傷が深刻化する前の軽微な状態のうちに補修する予防保全型の維持管理により、長寿命化と将来の維持管理コストの平準化を図り、適切な維持管理に努めていきます。

●早期対策が必要な施設の対策率

早期対策が必要な橋梁は417橋(※)となっており、令和4年度に竹中停車場線の筒井大橋など53橋で対策を行い、90.1%の橋梁で対策が完了しました。

トンネル96本(※)については、令和4年度に日出山香線の豊岡トンネルなど8本で対策を行い、96.8%のトンネルで対策が完了しました。

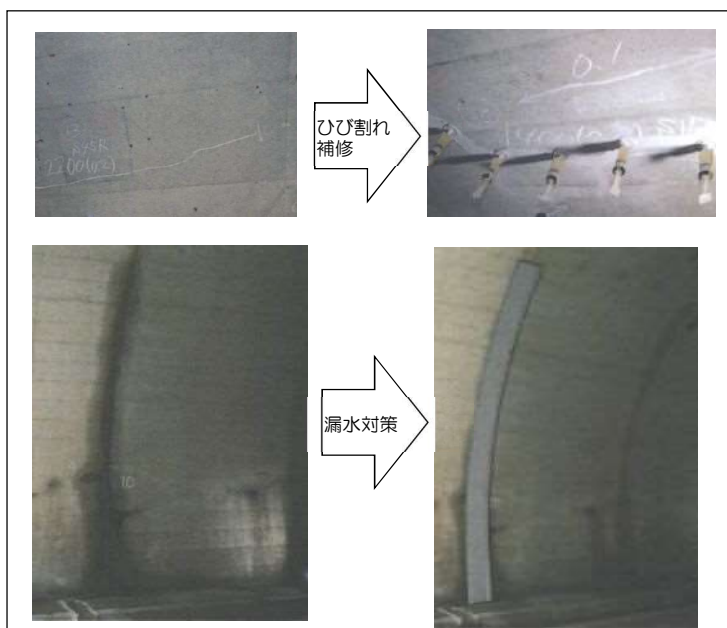
樋門・樋管153箇所については、令和4年度までに109箇所の対策(対策率71.2%)が完了しました。

砂防施設83施設については、令和4年度までに58施設の対策(対策率69.9%)が完了しました。

港湾施設35施設については、令和4年度までに22施設の対策(対策率62.8%)が完了しました。



橋梁 中判田犬飼線 涼月橋(豊後大野市)



トンネル 日出山香線 豊岡トンネル(日出町)

(※) 対象施設数は管理移管等で策定時から更新しています。

8 建設産業の魅力発信

●地域の安心・安全を支える建設産業のイメージアップ

建設産業は、地域の安心・安全を支え、快適な社会を構築するためには欠かせない重要な産業ですが、近年は若年入職者の減少が著しいことから、建設産業の魅力を伝えるイメージアップの取り組みを進めています。

おおいた建設人材共育ネットワーク



産業・教育・行政がともに手を携え、次代を担う建設人材を確保・育成するため、「おおいた建設人材共育ネットワーク」を平成28年11月に立ち上げました。

建設産業紹介動画製作やTVC、インターネット広告に加え、土木の日バスツアーの開催など様々な取組を通して、建設産業の魅力発信を行っています。

高校生向け建設現場体験学習会



産学官の連携の取組の1つとして、県内の土木・建築を学ぶ高校生を対象に建設現場体験学習会を開催しました。

中津日田道路工事現場やホーバークラフト旅客ターミナル新築工事を見学しました。（県内で5校が参加）

現場見学会のあとは、建設産業の仕事について、実際に働く技術者から講話を受けました。

建設産業女性活躍推進事業（BLOCKS）



建設産業における女性活躍を推進するため、令和2年度から建設産業女性活躍推進事業（BLOCKS）を実施しています。

建設産業で働く女性同士のネットワーク構築のほか、女性向けのスキルアップセミナーを行いました。

スキルアップセミナー参加者による成果発表会の様子を動画で公開しているほか、女性の多様な働き方をHPで紹介しています。